学校番号	3017

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	最新「数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	改訂版　書き込み式シリーズ　パラレルノート数学Ⅰ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は集中して聞き、ノートをきちんと取りましょう。自ら考え、積極的に発表や質問を行い、意欲的に取り組みましょう。
・家庭では、副教材である問題集を使って学習し、授業で学んだ内容の理解を深めましょう。
・問題は、途中式や考え方も書きましょう。各自で答え合わせをしてください。間違ったところは、答えのみを訂正するのでなく、つまずいた部分から書き写し、考え方を理解しましょう。
・できることを繰り返すことで本当の力になります。宿題や課題をやるだけでなく、予習や復習など自ら学ぶことが大事です。

2　学習の到達目標

数と式、図形と計量、二次関数について理解し、基礎的な知識と技能の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識するとともに、それらを工業系の学習に活かせるようになることを目標とします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量及び二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数と式を多面的に見たり、目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学の良さを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	式の計算 ・整式の加法と減法 ・整式の乗法 ・因数分解	a:単項式や多項式について理解し、式を展開、因数分解することができる。 b:複雑な式に対し、工夫をして展開することや、見通しを立て因数分解できる。 c:展開と因数分解の関係に着目し、考察を深め、改善しようとしている。	確認テスト 課題提出	確認テスト 課題提出	課題提出 提出ノート 振り返りシート 観察
		実数 ・実数 ・根号を含む式の計算	a:数を実数まで拡張することの意義、平方根の意味・性質を理解している。 b:自然数、整数、有理数、実数の各範囲で、四則計算について考察できる。 c:今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。	確認テスト 課題提出	確認テスト 課題提出	課題提出 提出ノート 振り返りシート 観察
2学期	数と式	一次不等式 ・不等式の性質 ・一次不等式	a:不等式の性質、解法を理解し、1次不等式を解くことができる。 b:身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。 c:不等式の性質や解法を考察し、身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。	確認テスト 課題提出	確認テスト 課題提出	課題提出 提出ノート 振り返りシート 観察
	二次関数	二次方程式 関数とグラフ ・二次関数とグラフ ・二次関数の最大・最小	a:因数分解や解の公式を用いて二次方程式を解くことができ、関数のグラフが書ける。 b:関数を表、式、グラフによって考察することができる。 c:二次関数の性質に興味・関心を示し、そのグラフをかこうとする。	確認テスト 課題提出	確認テスト 課題提出	課題提出 提出ノート 振り返りシート 観察
3学期	図形と計量	三角比 ・鋭角の三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 ・正弦定理と余弦定理	a:三角比の意味と相互関係を理解し、正弦定理や余弦定理を用いて図形の計量ができる。 b:三角比の値が角度によって定まることを理解し、具体的な事象を三角比の問題として解決や考察することができる。 c:直接測ることのできない距離や事象を数学的にとらえ、積極的に三角比を利用しようとする。	確認テスト 課題提出	確認テスト 課題提出	課題提出 提出ノート 振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度